

寒地基礎技術研究グループ勉強会を開催しました

寒地基礎技術研究グループ

令和元年11月26日、寒地土木研究所講堂において、寒地基礎技術研究グループ勉強会を開催し、名誉研究監である伊東佳彦氏と西本聡氏のお二方からご講演を頂きました（写真-1、写真-2）。

伊東氏は、昭和59年に農林水産省に入省され、農林水産省の本省および各地方農政局、北海道開発局等でご活躍なさいました。平成13年からは当研究所において、地質研究室長、防災地質チーム上席研究員、地質研究監を歴任し、研究の立案・推進およびその普及とともに、斜面災害対応やダム・トンネル等の建設における地質に係る技術指導にご尽力なされました。

西本氏は、昭和59年に北海道開発庁に採用となり、北海道開発局、本州四国連絡橋公団ならびに北見市において勤務された後、平成15年に当研究所へ異動となりました。当研究所では、土質基礎研究室長、寒地地盤チーム上席研究員、寒地基礎技術研究グループ長として研究の立案・推進およびその普及や地盤災害等の対応に当たられました。

お二方には、退職後の平成31年4月から名誉研究監として引き続き当研究所を支援して頂くこととなりましたので、これを機に、これまでのご経験等をお話しいただく勉強会を企画したものです。本勉強会には、当研究所の職員約40名が参加し、講演を熱心に聴講していました（写真-3）。講演の概要は以下の通りでした。

伊東氏には、「地質と研究のアラカルト」と題して、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で発生した地すべりについてご講演頂きました。数千箇所におよぶ土層すべりのほかに、北海道開発局が取得した航空レーザ測量による高精度DEMにより、新たに250箇所以上の岩盤すべりが判読できたことなどを紹介され、過去の偉人の言葉を交え、研究や仕事に対する心構えについてアドバイス頂きました。

西本氏からは、本四公団や開発局時代の橋梁技術者としての苦労話から研究所勤務で得た知識・経験まで広範囲に渡るお話しを、ユーモアを交えながらして頂きました。大規模な土砂災害や長大橋梁工事でのトラブルなど困難な場面でのご経験は、今後の私どもの業

務に対して示唆に富んだお話しでした。また、業務以外の思い出についても軽妙に語られ、会場は終始笑いに包まれていました。

（文責：林 宏親、日外 勝仁）



写真-1 講師の伊東佳彦氏



写真-2 講師の西本聡氏



写真-3 会場の様子